

## 学齢期の保護者皆様へ

## 8月「なんでもおしゃべり会」のお知らせ

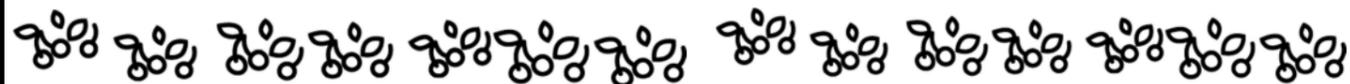
8月は夏休み！ということで、今回のおしゃべり会は「学齢期のお子さんをお持ちの保護者限定」で開催します。話題のテーマは「ちょっと言いにくい性のこと。みんなはどうしてる？教えて先輩！」と題して、様々な年代での性のお困りごとを話せたりしたらと思います。相談員や支援員への悩み相談ではなく、同じ保護者同士で体験話や実例を話す機会もいろいろと。もちろん、それ以外の話題もOKです。

夏の暑い時間、お子様がサービスを利用されている時にちょっとお茶でも飲みませんか。

**日時: 8月10日(月) 午前 10:00~12:00**

**場所: りとるの家 はなれ 市民交流スペース A**

ご参加お待ちしております。



### リレーエッセイ

毎月お楽しみ『リレーエッセイ』！  
りとる職員が思い思いのことを書きます。  
普段は見えない職員の「新たな一面」がのぞける社外社内ともに人気のコーナー♪

今回は、へるぶ屋びっとのサービス提供責任者渡辺と、短期入所「ぶあん」の担当藤田です。

りとるらいふでお仕事をさせていただくようになり、もうすぐ6年。結婚し、パパになり、気付けば32歳。娘も2歳になりました。あまり休みが合わず、たまの休みに過ごす家族の時間が唯一の楽しみです。早く帰れる時は娘が好きなイオンでおやつを買ったり、家では一緒にお風呂に入るようにしています。

娘は普段、保育園に通っています。お迎えに行くと車の中で今日の出来事を教えてくれます。娘からの話や保育園からの連絡ノートを見るのが、夫婦共通の楽しみになっています。

仕事で皆様のご家族をお預かりする側と、親として自分の家族を預ける側の両方を経験することで、サービスの必要性やありがたみを感じ、自分たち家族の生活は、たくさんの人に支えられているのだと改めて感じています。

渡辺 功



最近、新たに始めたことがあります。それは「早朝ウォーキング」。

日頃の運動不足を解消する為、それも夜より朝に運動する方が良いということで、朝5・6時頃に起き出して1周2km強のコースを2周ほど歩いています。

家から徒歩数分という近さの高田公園のウォーキングコース。小学生の頃は通学路で歩き慣れた道だったのですが、大人になるにつれ、歩かなくなっていきました。

運動をしにわざわざ遠くまで行ったり、ジムに通ったりせずとも身近にいい場所があることに感謝しつつ、そして眠気と戦いつつ、朝の時間を有効活用しています。

今、お堀は蓮の花がとてもきれいです。そしてウシガエルのBGMがもれなくついてきます。

目と耳で季節の移り変わりを感ずることができるこのコース。

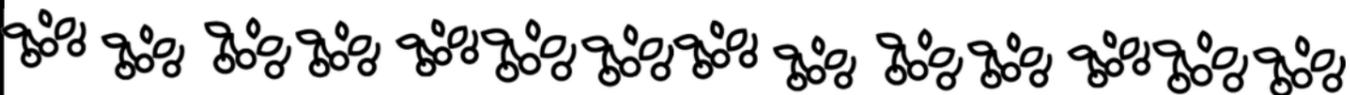
マイペースに楽しくゆっくりと、しばらく続けていこうと思います。

短期入所担当 藤田千夏

来月は「相談支援事業所らく」相談員の吉田と

「生活介事業所きら」支援員の東澤です。

お楽しみに！！



発行者：社会福祉法人みんなでいきる 障害福祉事業部りとるらいふ  
通信に関するお問い合わせ先：事業部代表 TEL025-542-0170 (担当：久保)

# りとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる  
障害福祉事業部りとるらいふ  
発行日：2015年7月

最近、暑い日が続いていますね。テレビで「気温39度」なんて数字を見ると、“体温より熱いじゃない！！”と衝撃を受けます。数十年前は、こんな数字じゃなかったような気がするのはいちじやないでしょうか。りとるらいふでは、その暑さに職員はもちろんですが、パソコンちゃんが悲鳴をあげています。今年もパソコンちゃんのためにクーラーをつける毎日になりそうです。



## りとる事業所紹介★パート3

### 短期入所事業所「ぶあん」

特別シリーズで掲載中の「りとるらいふの事業をちょこっとご紹介」のコーナー。

第3回目は、現在多くのお問い合わせや見学希望をいただいている短期入所事業所「ぶあん」をご紹介します。

まず、「ぶあんってどういう意味ですか？」と聞かれることがある、この事業所名。りとるらいふの事業所は、「ららん」「びっと」「にこ」など、いろいろな名前がありますが、それぞれにイメージされたものがあり、想いが入っています。「ぶあん」はタイ語で、「友達」などを総称する言葉。そこから「ともに歩く、寄り添う関係」でありたいという想いを込めてこの名前になりました。



「ぶあん」は、全個室型で4名定員のショートステイ。「りとるの家はなれ」にあるこのショートステイを建設してゆく際に大切にしたこと、それは「家庭的な雰囲気であること」。宿泊に来られる方には、それぞれにそれまでの人生の生活スタイルがある中で、やはりどこかくつろげないような冷たい雰囲気のある場所には来たいとは思わないのではないか、であれば、「ぶあん」をより心地よく過ごせる場所にするためにはどのようなつくりにするのか、とても悩みました。結果、自分の部屋として過ごす「個のスペース」と、家族のようにみんなで過ごす「共有スペース」を意識して、温かみのある雰囲気を出すような家具を準備することになりました。

「はなれ」で短期入所を開設して丸2年。現在、ご契約いただいている方はありがたいことに80名を超えました。学齢期の児童から成人期の方まで様々な年齢や障害特性をお持ちの方がいらっしやいます。また、ご利用としては1泊2日の方が多く、2泊以上という方は、毎月数名程度です。

「短期入所」と一言で言っても、その有りよう(持っている強み)は各事業所によって違います。「ぶあん」は正直な所、お風呂は介助用のお風呂ではなく、広さも介助者が一緒に入ると少し狭く感じる所もあり、お体の配慮が必要な方には使いにくさもあるかもしれません。ですが、夜間は短期入所のご利用者様のみで、かつ、閑静な住宅街の中にあるため、とても静かに穏やかな時間を提供できます。支援者は「個室に入る時には、その人のプライベート空間に入るのだからノックするなど気を付けるように」と皆その気持ちを大事にしています。

たくさんのご利用希望を頂けることに感謝しながら、今後もより落ち着ける空間を意識していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。





## ～「アール・ブリュット展 in 上越」開催中～

先月号でも、お知らせさせていただきました「アール・ブリュット展 in 上越」ですが、皆様足をお運びいただけましたでしょうか？この美術展では、今回15名の作家さんの作品が飾られておりますが、そのうち4名が新潟県の作家さん。

オープンして1週間が経ちましたが、福祉関係者はもちろん、やはり美術を目指す人もご来場いただいております。またアール・ブリュット展を目的に県外からのお客様も来られています。

無料ですので、ふらっと寄っていただければいいと思いますが、もし、お時間のある方は、ぜひ作品のキャプション（説明）をお読みください。その作家さんの情報や作成風景が目につかひ、より感動を味わえます。展示は、7月31日（金）まで。ぜひ「あすとぴあ高田」へお寄りください。



## 地域の先生 募集しています！

現在、放課後等デイサービスでは、「地域の先生」と題して音楽や美術などの特技をお持ちの方を大募集中です。その目的は、過ごしのパリエーションを増やして楽しい活動を提供できるようにするためと、支援者ではない地域の人達との関わりの機会を提供したいため。活動に関わる経費（有償か無償か等も含め）や、協力頻度（単発か継続か等）は相談に応じます。まずは、「美術」「書道」「お花」「楽器演奏」等、何か子どもたちとの活動を一緒に行ってくれる方を募集しておりますので、自薦他薦問わず、ご紹介ください。



【ご紹介いただける方は、「放課後等デイサービス事業所ららん」 笹川・矢澤（025-542-5126）まで】

## イベントやいます☆

「りとるの家はなれ」を建設して2年。この間、毎年8月に「りとるのえんにち」と題して夏祭りを開催してきました。失敗を重ねながら少しずつ形作ってきたこのイベントですが、今年は夏祭りから離れてもう一度企画を練り直し、地域の方や普段お世話になっている関係者の皆様、ご利用者の皆様へのお礼を目的として、「りとる感謝祭」を実施することになりました！

日程は、10月11日（日）に実施予定。まだまだ実行員会も企画を練り中なので、詳細まではお知らせできませんが、この日は全事業をお休みさせていただきます、職員総出で感謝祭を実施致しますので、関係者の皆様、そしてご利用者の皆様、ご理解をいただきますとともに、当日はご来場いただけますよう、予定を立ていただければ幸いです。よろしくお願い致します☆

## お知らせ

これまで、毎月25日に発行しておりましたこの「りとるらひ通信」ですが、今月号より毎月15日の発行となりました。

ご利用者の皆様はもちろん、特別支援学校や市町村関係者の皆様にもお配りしております。

もし、お知り合いの方などで、「自分にも送ってほしい」という方がいらっしゃった時は、ぜひお問い合わせください。

【問い合わせ先】

担当：久保

（025-545-5188）



## 障害のある方の芸術文化活動を国家成長戦略に！

社会福祉法人みんなできの  
副理事長 片桐公彦

以前のコラムでも少し書きましたが、7月6日から31日高田駅近くの「あすとぴあ高田」5階・ギャラリーミューゼ雪小町において「みんなできの」主催で「アール・ブリュット展 in 上越」を開催しています。現在のところ、お客様の入りは上々で、いくつかのマスコミからも取材をしていただきました。アンケートの評価もとても高く開催した我々としては「やってよかった」と心から思っています。

7月6日のオープニングセレモニーには約100名の方にお集まりいただき、上越市健康福祉部長様、福祉課長様、文化振興課長様、上越地域振興局様にお越しいただきました。さらに自民党衆議院議員で厚生労働部会長の高鳥修一議員も来賓でお越しいただきご挨拶と、後半のギャラリートークにご登壇いただきました。

オープニングセレモニーの前に関係者のみの事前鑑賞会を開催したのですが、多くの方がアール・ブリュット作品を目にするのが初めてということで、その色彩の美しさ、創作の独自性、迫力やその美しい造形にただただ言葉を失い、またある方は驚愕の声をあげておられました。上越というまちに、アール・ブリュットという芸術文化のひとつのあり方に光が当たった瞬間でした。それは障害のある方の存在の価値やエネルギー、その魅力そのものに光が当たった瞬間でありその風景を眺めながら涙が出ました。

オープニングセレモニー後半のギャラリートークでは、「みんなできの」の大島理事長、先述の高鳥修一先生、今回の企画展のアートディレクターをお務めいただいた社会福祉法人愛成会の小林瑞恵さん、柏崎市の社会福祉法人ロングラン理事長の西川紀子さんが登壇され、軽快なテンポのセッションが展開されました。

ギャラリートークの中で高鳥先生は「国では障害のある方の芸術文化活動を支援するモデル事業を実施している。

このモデル事業を通じて人材の育成、ネットワーク作り、著作権の保護などを上越でも推進していただきたいというメッセージがありました。我々としては次年度のモデル事業採択に向けて、現在、動き出しておりますがそれを後押しいただくカタチになりました。

国の方向感で書きますと、2020年の東京オリンピックパラリンピックに向けて、障害のある方の芸術文化活動を大きく推進していく意向を東京都の舛添知事が表明しました。さらに6月30日に閣議決定された「骨太の方針2015」の中に「障害者の芸術文化活動の振興」が明記されました。

「日本の障害者福祉の父」といわれた糸賀一雄先生は「この子らを世の光に」という言葉を残しました。まさにこの成長戦略への位置付けは障害のある方がこの国の成長戦略や我々の社会の中を輝かせる存在として認められたということを示しています。

これまで障害のある方々は、制度が進んでもやはり「救済される存在」であったことにずっと残念な思いをしていました。制度だけがどんなに充実してもそれだけで障害のある方の暮らしは豊かにならないと考えてきました。

でも、ようやく「障害のある方がこの世を照らす光なのだ」と言える時代になりました。今という時代のこのチャンスをしっかり掴み取って、本当の意味で障害のある方の暮らしが豊かになるために動いていきたいと思っております。

